



# acc japan 通信

渡航を伴わない国際交流支援プログラム  
グラント受賞者紹介

**PICK UP** 「チャオチャオ！ベトナム水上人形劇！」  
横堀ふみさん（ACC2008年グランティ）

グランティ・インタビュー

## 「ACC からもらったもの」

竹内公太さん

（ACC2017年グランティ）

渡米中の竹内公太さん

2018年1月、ワシントン州トッペンニッシュにて、  
1945年3月10日に付近で落ちた風船爆弾の動きを  
小型ドローンで“再演”する様子  
（撮影：Joel Neville Anderson）

**VOL.01**  
.....  
**2021/5**



# ACCからもらったもの

グイジュアル・アーティスト  
竹内公太さん

## 寡黙である代わりに

ACCにアプライ(応募)した理由は、もちろん具体的なプランや構想もありましたが、気持ちとしては「試したい」思いがありました。これまでの作品から、ときおり社会運動家(アクティビスト)と誤解されることもありましたが、僕はそうした連帯運動とは程遠く、社会の片隅で勝手に制作発表しているつもりでした。ただ、SNSを用いて誰もが盛んにつながり合って発言し合う世の中で、一方の自分は世の中に対して単なる傍観者なのか。斜に構えているだけなのか。それでいいんだろうかと反芻してしまいました。社会的には寡黙でも、芸術としては雄弁でありたい。そういう考えはどこまで通用するのか見出したい思いがありました。

ACCでの渡米が叶い、帰国後これまで考えてきたことを「エコーシユータイング 盲目の爆弾」と題して小冊子にまとめました。思索と感情をきちんと表明し、作品の動機を確認したかったです。海外に出て、新しい視野、交流の中で自分を俯瞰し、きちんと言葉にしていけたことは本当によかったです。

## 国を越えての交流

二〇一七年十月からNYに滞在した三カ月は、とても大切なものになりました。グラントイをはじめ色々な人との交流を通じて、英会話、礼儀やマナー、一人でいると見失ってしまうような最低限の社交性を学ぶいい機会になりました。アーティストとして社会的に活動する上でとても大事なことです。人から支えられていること、人からももらった言葉なども見つめ直しました。ACCの皆さんはじめ、ご紹介頂いた方、偶然巡り会った人も含めて本当に素晴らしい人たちに出会い、僕は結構変わったんです。ブツブツ陰で独り言を呟いてはうつむくような面もある人間でしたが、初対面の人と挨拶して交流することを楽しいと思うようになりました。

NYで出会ったACCグランティのモ・サ(Moe Sat)は、ミャンマーのアーティストで、明るく社交的で、ユーモアのある人です。今でも連絡を取っています。ミャンマーに関するリサーチもしていて、彼にも協力を仰ぎ、歴史・地域・文化に直接触れたいと思っています。今のミャンマーの国内動向には注目しています。

## 風船爆弾の作品

翌年一月―三月は、レンタカーでおもにワシントン、オレゴン、ユタ、アイダホなど西海岸―中西部を巡り、調査、撮影を行いました。

それは「風船爆弾」についての旅です。戦時中、日本軍は米国を攻撃するために風船に爆弾をくくりつけた兵器を作り、それを千葉茨城、福島から約九、三〇〇発空に放ちました。そのうち数百発ほどが偏西風に乗って北米大陸に到達したそうです。二〇一三年ごろ僕は初めてこの歴史を知り、調査を重ねてきました。実際に風船が落ちた場所を訪れ、公文書に残された証言記録に従って、風船の最後の動きはこうだったんじゃないかとドローンを使って演じてみるような撮影を各地で行いました。(※表紙写真参照)



竹内公太「盲目の爆弾、コウモリの方法」(2019-2020)からのスチール写真

綿密なリサーチをもとに、映像や写真、インスタレーション、ライブパフォーマンスなど多岐に渡る表現方法で作品を制作している竹内さん。記録や記憶を映し出す情報メディアの特性と人々との関係性、そこから引き起こる人間の感情や意識を見出そうとしています。

東日本大震災後に福島県へ移住し、東京電力福島第一原発の作業員として勤務しながら、発電所内のライブカメラを指差す「指差し作業員」の代理人としての活動・展開にも注目が集まりました。ACCでも支援を行うDon't Follow the Wind(福島での原発事故による立ち入り制限区域へ作品を置く「親に行くことができない展覧会」プロジェクト)にも参加されています。Tokyo Contemporary Art Award(TCAA)2021-2023も受賞され、今後さらに楽しみなアーティストです。

ACCグランティ(助成受給者)としては2017年より6ヵ月間米国研修をなさっています。当時のお話や制作への思いなどをうかがいました。

## 遠隔兵器とSNS

風船といえどかまで平和的なイメージですが、爆弾はそうではない。風まかせて飛ばすこの爆弾を放った側は、相手の姿を直接見ることはありません。そうしたことを考えていくと、現代のSNSも相手を見ないで放つ飛来物のようだと、といったことが思い浮かびました。風船爆弾は兵器でありながらメディアのようで、SNSをメディアでありながら兵器に近いと感じるような、そうした循環を見出したんです。メディアと人間との関係や、遠隔コミュニケーションについて考えています。

また、過去のことを調べて見出された知識が今からするとどういう意味を持っているか、過去というレンズを通すと現代はどう見えるか、そういう視点が持てることは芸術の意義のひとつだと思いいつて重宝しています。

## 北米大陸のドライブ

州を越えて何千キロもドライブしたわけですが、当初は無謀にも「自転車」で周ることを考えてまして……土地の広大さや移動時間を身体感覚としてわかっていなかったんですね。映画やドラマなどで何度も米国を観ていますが、人が移動する時間やシーンは大体カットされて描かれてないからでしょうか(笑)。ACCスタッフの方に、自転車ではキビシイとアドバイスを受けてまして……車の免許もなかったので、渡米前にまず教習所に通いました。

実際に風船爆弾の落ちた場所を訪れると、その多くがただ広い荒野だったり、山と低木みだいな殺風景とも言えるところでした。作品の中では、時間をかけてそこを見せるようにしています。この国にはこうした広大さがあって、居住地はまばらに点在しています。そうした中で、風船爆弾の犠牲となられた方々がいて、目撃者がいて、米軍が緘口令を敷いたり、日本軍は記録を隠滅し……。

物事を様々な角度から、遠くで見たり近くで見たり、それを繰り返すと情景が立体的に見えます。すると必ずどこかで自分の誤解と違いが体感として見出され、メディアとは何なのか、映像と身体感覚といったことを考える契機が生まれます。長時間の殺風景なドライブは、こうした表現に関する気づきがあり、また米国という国を理解する意味でも、いい経験になりました。

## 今後について

先ごろ受賞したTCAAでは、海外での活動と東京都現代美術館での展覧会といった支援があります。僕は再度渡米し、風船爆弾の調査と作品の続きをしようと考えています。ACCでもらったものが、作品と自分の中に息づき、今も継続しています。感謝申し上げます。

(取材・構成 松平節)



### プロフィール

#### 竹内公太 (たけうち こうた)

1982年兵庫県生まれ。2008年東京藝術大学美術学部先端芸術表現科卒業。現在、福島県いわき市を拠点に活動。

主な個展として「Body is not Antibody」(2020/Snow Contemporary)「盲目の爆弾」(2019/Snow Contemporary)「メモリー・バグ」(The Arts Catalyst・UK)、グループ展に「2017 Asian Art Biennial」(台湾)「MoT コレクション After images of tomorrow 2013」(東京都現代美術館)、Don't Follow the Wind (東京電力福島第一発電所事故に伴う帰還困難区域某所)など。

2021年「Tokyo Contemporary Art Award 2021 - 2023」受賞。

作家ホームページ：<http://kota-takeuchi.net> →



ワシントン州リッチランドでドライブ中の様子 (撮影: Joel Neville Anderson)

## 過去というレンズを通すと

## 現代はどう見えるか、

## そういう視点が持てることは

## 芸術の意義のひとつだと思おう



## グラント受賞者 紹介



グラント受賞者紹介ビデオ公開中！

## 特定非営利法人

## ブリッジフォーアーツアンドエデュケーション

分野：演劇、ダンス

交流国：日本、インドネシア、マレーシア、タイ

新型コロナウイルスの影響で 2021 年 8 月に延期となった「完全版マハーバーラタ」東京公演に参加するアジア諸国と日本のアーティストと演出家 小池博史の映像作品のリモート制作にともなう 2021 年 3 月開催のカンファレンス実施への支援。

2019 「Endless Bridge~ マハーバーラタ完全版」ジョグジャカルタ公演より



## コラボラティブ・カタロギング・ジャパン

分野：映画 / ビデオ / 写真

交流国：日本、米国



COLLABORATIVE CATALOGING JAPAN

1970 年代の日本におけるメディア・アートに関係する日米のアーティスト、研究者、アーキivist、観客と巻き込んだ対話や調査、発表を通じたネットワーク構築を支援。

パネル「日米のオルタナティブ・映像アーカイブの成り立ちと現在の方向性」(2016 年 11 月 26 日)、日本大学



## 特定非営利活動法人ダンスボックス

分野：ダンス

交流国：日本、ベトナム



神戸におけるベトナム人コミュニティとの文化交流活動に焦点をあてたプロジェクトの支援。2020 年は、ベトナムの水上人形劇と神戸市長田区のベトナム人コミュニティを紹介するプログラムを配信。

オンライン特別番組「チャオチャオ！水上人形劇！」第1回サムネイル画像



## Don't Follow the Wind

分野：ビジュアル・アート

交流国：日本、米国



2020 年春、米国のキュレーターを招聘し実践されるはずだった調査にかわり、プロジェクト参加メンバーである日米のアーティストとキュレーターによる日本での共同調査とオンラインミーティング開催への追加支援。

2020 年 9 月 13 日、Don't Follow the Wind 会議、新宿ホワイトハウスにて



## 一般社団法人ドリフターズインターナショナル

分野：パフォーマンス・制作

交流国：日本、フィリピン、インドネシア、マレーシア



アジア諸国における舞台芸術関係者による、交流や制作、批評のネットワークプロジェクト「Jejak- 旅 Tabi Exchange: Wandering Asian Contemporary Performance」におけるオンラインでの実践を支援。

2020 年 1 月「Jejak- 旅 Tabi Exchange」ロハスシティーツアーの様子



## リージャン・スタジオ 麗江工作室

分野：音楽

交流国：日本、中国、台湾



新型コロナウイルスの影響で 2020 年 1~2 月の実施が中断されていた、中国雲南省のリージャン・スタジオと、日本および中国、台湾各地のアーティストによる交流の継続支援。

プロジェクトメンバーの集合写真



## 特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センター (PARC)

分野：パフォーマンス・制作

交流国：日本、タイ、韓国、台湾、香港、米国



アジアと世界の舞台芸術のプロフェッショナルのための国際プラットフォーム「国際舞台芸術ミーティング in 横浜 (TPAM)」における交流プログラム「TPAM エクスチェンジ 2021」実施への支援。

2020 年 TPAM 開催時の様子



## 清水チャートリー &amp; 超俊毅 ジュンイ・チョー

分野：音楽

交流国：日本、マレーシア、米国



日本出身の作曲家 清水チャートリーと、マレーシア出身の作曲家 ジュンイ・チョーによる、日本と中国の笙の作曲技法を芸術音楽作曲家に伝える、バーチャルアカデミー「SEED 2021」(2021 年春~夏)の開催支援。

作曲家メンターのための「Project SEED」デモレクチャー撮影時の様子



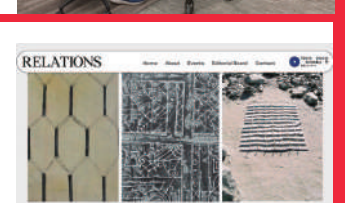
## 一般社団法人東京ビエンナーレ

分野：ビジュアル・アート

交流国：日本、米国、アジア諸国



東京ビエンナーレ 2020/2021 の一部として、海外参加作家のインタビューとリサーチプロセスをウェブ上に公開するとともに、日、英、中、韓の多言語批評とメディア実践のためのプロジェクト「RELATIONS」のウェブ上の展開およびアーカイビングを支援。



# チャオチャオ！ベトナム水上人形劇！

PICK UP

特定非営利活動法人ダンスボックス プログラム・ディレクター

横堀ふみさん

シン・チャオ！（ベトナム語で「こんにちは！」）皆さん。  
ようこそ、長田のベトナム・ワールドへ！



オンライン特別番組アーカイブ公開中！  
「チャオチャオ！ベトナム水上人形劇！」

写真提供：タンロン水上人形劇場（ハノイ/ベトナム）

二〇二〇年「渡航を伴わない国際交流支援プログラム」で支援させていただいたプロジェクトの中から、ベトナムの水上人形劇と神戸市長田区のベトナム人コミュニティを紹介するオンラインプログラムを実施された、特定非営利活動法人ダンスボックスプログラム・ディレクターの横堀ふみさんに、プロジェクトの背景とご感想を寄稿いただきました。

「日本に暮らすベトナム人の子どもたちにとって、ベトナムの言葉と文化、日本の言葉と文化の両方がとても大切なものなのです。長田に暮らすベトナム人の子どもたちが将来、日本とベトナムの文化をつなぐ人になってほしいと思います」このテキストは、「チャオチャオ！ベトナム水上人形劇！」の第四回目の番組で発せられた言葉です。

二〇二〇年からこれまでに至るまで、私は数多くの国際交流事業に関わってきました。初期では国境を越えた「他者」と出会い、お互いのダンス観を交換しながら、協働することとは特別な機会でした。その後、徐々に国境を越えて移動することが容易になると共に、国際交流事業はさかんに行われるようになって、日常業務の一つになってきました。そんな中、足元の地域に広がる、関わり合いの少ない国際交流が気になってきたのです。ベトナム人の地域住民と日本人地域住民の狭間にある「境界」は依然として確かに存在するのです。

そして、ようやく二〇二〇年「ベトナム」と「長田」をつなぐこと出発点とし、三カ年のプログラムとして「チャオチャオ！ベトナム水上人形劇！」を立ち上げました。（ようやく…とは、足掛け五年以上にわたって、アイデアのスケッチを描き直してきたから。）何よりもこのプログラムでは、両者の「境界」を行き来できる存在を可視化することが重要でした。今回、その存在は「ベトナム水上人形劇」と「長田に暮らすベトナム人の子どもたち」。ここで冒頭のテキストにつながります。両者の文化を我が身に持ち、そのジャンルに日々揺らいでいる存在。彼らの数えきれない揺らぎが、この地域のポテンシャルに転じる未来を望みます。

さて、コロナ禍に突入し、第一回目の緊急事態宣言が発令された中で、ベトナム水上人形劇の演出家や人形使いの役者を招聘する計画を白紙に戻しました。何度も何度も考え直し、相談を重ねながら、全てオンライン・プログラムに変更することにしました。オンラインによって功を奏したのは、二〇二〇年のコロナ禍における長田の数多くの「ベトナム・コミュニティや人々」の姿を、映像に切り取ることができたことでしょう。そして、ハノイのタンロン水上人形劇場との信頼関係をより強固に結ぶことができたことです。しかも、それらは、アナログな！然るべきスピードで進んでいたのです。

しかしながら、オンラインの為の映像プログラムをつくる…という初めての試み、そしてベトナム語を全く理解しない私にとって、一人では何も手につけることができないのです。必然的にいろんな方の支えを得ることで、よりベトナム人の地域住民と日本人地域住民の両者に立脚する複雑な文脈を身をもって知ることになったことも大きな収穫の一つです。

今回、様々な場やレイヤーにちりばめられた国際交流の種。今後このプログラムが温める種も、このプログラムに関わった人が育てるものも、そして与りしれぬ誰かから芽をだすこともあるかもしれない、そのような土壌を耕すことになった一年目の「チャオチャオ！ベトナム水上人形劇！」。ご支援くださった皆さま、関わってくださった全ての皆さまに心より感謝申し上げます。



横堀ふみ（よこほり ふみ）

特定非営利活動法人ダンスボックス プログラム・ディレクター。神戸・新長田在住。活動拠点とする劇場 Art Theater dB では、ダンスプログラムを中心に、ほぼ全ての作品／企画を滞在制作によって実施する。2008年度 ACC の助成を受け米国および東南アジアに滞在。ベトナム人の夫をもち、一児の母でもある。

Photo by Junpei Iwamoto

## 「アナザーエナジー展：挑戦しつづける力 —世界の女性アーティスト 16人—

会期：2021年4月22日（木）～9月26日（日）  
会場：森美術館（六本木ヒルズ森タワー 53階）

世界各地で挑戦を続ける70代以上、アーティストとしてのキャリアは50年以上の女性アーティスト16名を紹介する展覧会。

\*ACC1986年グランティの三島喜美代さんが出展されます。  
出展アーティスト：エテル・アドナン、フィリダ・バーロウ、アンナ・ボギギアン、ミリアム・カーン、リリ・デュジュリー、アンナ・ベラ・ガイゲル、ベアトリス・ゴンザレス、カルメン・ヘレラ、キム・スング、スザンヌ・レイシー、三島喜美代、宮本和子、センガ・ネングディ、ヌヌンWS、アルビタ・シン、ロビン・ホワイ



三島喜美代《作品 19-C5》2019年  
シルクスクリーン印刷した陶に手彩色、鉄  
サイズ可変

詳しくは森美術館 HP へ！

Courtesy:Taka Ishii Gallery



## 「THEATRE for ALL」

バリアフリーと多言語で鑑賞できるオンライン型劇場

日本で初めて演劇・ダンス・映画・メディア芸術を対象に、日本語字幕、音声ガイド、手話通訳、多言語対応などを施したオンライン劇場。現在、オリジナル作品を含む映像作品約30作品、ラーニングプログラム約30本を配信し、定期的なオンラインワークショップも開催しています。

\*ACC2014年グランティの毛利悠子さんのインスタレーション作品の映像、2012年グランティ岡田利規さん主宰の演劇カンパニー「チェルフィッチュ」による演劇作品が公開されるほか、2013年グランティの蓮沼執太さんがサウンドロゴを手がけられています。また、当プロジェクトは、ACC2016年グランティの中村茜さんが代表を務めている株式会社 precog が運営しています。



詳しくは「THEATRE for ALL」HP へ！



## 「東京ビエンナーレ 2020/2021」

会期：2021年7月10日（土）～9月5日（日）  
\*会期は変更になる場合があります。

会場：東京都心北東エリア  
（千代田区、中央区、文京区、台東区の4区にまたがるエリア）

東京・北東エリアを舞台に展開する国際芸術祭。今年7月開催の第1回目は、「見なれぬ景色へ—純粋 × 切実 × 逸脱—」をテーマに、国内外から約60組の作家やクリエイターの方々が参加されます。

\*ACCの2020年「渡航を伴わない国際交流支援プログラム」で、東京ビエンナーレのプロジェクトの一つ「批評とメディアの実践プロジェクト [RELATIONS]」を支援しています。  
\*ACC1992年グランティの内藤礼さんと2006年グランティの宮永愛子さんがアートプロジェクト「Praying for Tokyo 東京に祈る」に参加されるほか、2013年のグランティの林加奈子さんが「スミシングブルー東京」を発表、また、2007年グランティ（団体助成）のcommandNが「天馬船プロジェクト」を展開されます。



詳しくは「東京ビエンナーレ 2020/2021」HP へ！



## 「虹をかける：原美術館／原六郎コレクション」

原美術館 ARC リニューアル後初の展覧会

会期：第1期（春夏季）：2021年4月24日（土）～9月5日（日）  
第2期（秋冬季）：2021年9月11日（土）～2022年1月10日（月・祝）

会場：原美術館 ARC（群馬県渋川市金井 2855-1）

今年1月に東京での活動を終了した原美術館が、群馬県渋川市の別館「ハラミュージアムアーク」と統合し、2021年4月に「原美術館 ARC」としてリニューアルオープン。4月24日から開催の展覧会では、「原美術館コレクション」と「原六郎コレクション」から、性別も国籍も文化も異なるアーティストたちの多様な表現が展観されます。

\*出展する ACC グランティ（グラント年）  
<全期> 草間彌生さん（1964年）、宮島達男さん（1989年）  
<第1期（春夏季）> 篠原有司男さん（1969年）、ナム・ジュン・パイクさん（1965年）、三木富雄さん（1971年）  
<第2期（秋冬季）> やなぎみわさん（1998年）、柳幸典さん（1992年）、横尾忠則さん（1968年）



詳しくは「原美術館 ARC」HP へ！



撮影：大沢誠一

# ご挨拶

## 新たな時代に向かって



まだまだ終結には遠いコロナ禍の中ではありますが、巷ではポストコロナを話す事も多くなってまいりました。

ACC日本財団では新たな時代に、どのような文化交流が今後のアジアやアメリカにとって意味があるか、日本の将来のプレゼンスのためには何が必要かを考え、今後も時代に相応しい事業を展開して行きたいと思っております。

新たな活動のひとつとして、ACCのグランティやアルムナイ（これまでにACCのグラントを授賞した方々）の活動を広く紹介し、ACC Japanの活動を知って頂きたく「ACC Japan通信」を発行することになりました。これを通してACCのことをよりご理解いただき、身近に感じていただければ幸いです。

また、コロナが収束しましたら、ACCの支援者の方々に芸術を通じた国際交流の機会やアーティスト達との交流を楽しんで頂けるよう、様々な企画を進めております。

まずはこのコロナ禍を上手に乗り切り、新たな時代の幕開けにご一緒出来る事を楽しみにしております。お大事にお過ごし下さいませ。

アジアン・カルチュラル・カウンスル日本財団

代表理事 麻生和子

### ACC 日本財団 評議員・理事

代表理事 麻生和子	理事 中村信夫	理事 建島 哲	理事 秋元雄史
評議員 ウェンディ・オニール	評議員 堤 猶二	評議員 小川 博	評議員 力石寛夫
評議員 アーネスト M. 比嘉	評議員 新浪有紀	評議員 渡辺純子	評議員 藤井ダニエル
監事 津田敬一			

### ACC 日本財団 評議員・理事

アジアン・カルチュラル・カウンスル (ACC) は、1963年、ジョン D. ロックフェラー三世により、アジアと米国、アジア諸国間の国際文化交流を支援するために設立されました。現在、ニューヨーク本部のほか、東京、香港、マニラ、台北に拠点を有する各非営利財団組織を有しています。

ACC は、個人のアーティストや芸術人文科学分野の研究者、専門家を対象とするグラント（助成）プログラムを提供し、国際的な人材を育てるとともに、文化による国際親善に貢献しています。渡航費や日常、調査研究の費用のみならず、渡航先の国や地域における調査や生活に必要なきめ細かな支援を行い、グラントプログラム終了後も生涯に渡る関係を継続していくことがACCの支援プログラムの特徴です。

全世界4000名、日本でも600名にのぼる、ACCのグランティ、アルムナイ（グラント受賞者）は、文化の国際的なリーダーとなり、世界に広がるACCネットワークの一員として活躍しています。

（スタッフ）  
ディレクター：吉野 律  
プログラム・オフィサー：城戸 久瑠実

ACC 公式ホームページ  
公式 SNS へはこちらから！



asian cultural council

Asian Cultural Council Japan Foundation  
一般財団法人アジアン・カルチュラル・カウンスル日本財団

104-0031 東京都中央区京橋 3-12-7 京橋山本ビル 4F

Tel:03-3535-0287 Fax:03-3535-5565 Email:acc@accjpn.org